

令和5年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	19	議席 番号	9	氏名	稲葉晃司 議員	1/2
発言項目		要 旨				答弁者
1	富士宮市の農業政策について～SAY 農2023 その3～	<p>地域計画の話合いに関する報告会が行われたとのことであるが、これまでの話し合いの内容を分析していく中で得られたものを参考に、富士宮市の農業を活性化させる取組がなされていくと考えられるが、導き出された答えは何か。以下、伺う。</p> <p>(1) 農業をこれからの担い手に引き継いでもらうにはそれなりのスピード感も求められる。 今、何らかの手を打たなければ、新たな担い手が就くことはなく富士宮市の農業は終わりを迎えるのではないだろうか。今、農業を取り巻く環境はそのような時であるように思う。 そこで、団塊の世代の子どもの世代から孫の世代に引き継いでいくために効果のある圃場整備事業を進めていくことは、優先順位が高いと考えられるが、市の見解を伺う。</p> <p>(2) 専業農家だけでなく、兼業農家の推進も並行して取り組むことが求められるが、市の考えはいかがか。</p> <p>(3) これからの担い手を生み出すきっかけづくりとして、教育現場における協力も必要と考える。富士山学習の中で米、野菜及び果物等について学んでいるが、その学びの中で、児童生徒は農業に対してどのような思いを持つのか。地域の課題の一つとして、農業に対して今一歩踏み込んだ教育を実践することにより10年後の担い手づくりの可能性を広げることを検討できないか。</p> <p>(4) 担い手不足対策の一つとして、農福連携は効果のある取組であると考え。担い手不足の対策だけでなく障がいを持つ方たちに就業の場を提供できることから様々な効果が期待できる。そこで以下伺う。</p> <p>① 富士宮市内において、農福連携の実践事例の件数はどれほどあるのか。</p> <p>② 障がい療育支援課と農業政策課または農業委員会との間で農福連携に関する連携は取れているのか。実際に農家や農業法人等と社会福祉法人等を繋ぐ機会はあるのか。</p> <p>(5) 慣行農法に取り組む担い手と有機農法に取り組む担い手との間でトラブルの話聞くことがあるが、双方の交流の場を行政主導でつくり出すことはできないのか。また、今後の衝突を回避するために有機農法振興区域の設定などを検討する必要性を感じるが、市の考えはいかがか。</p> <p>(6) 農業政策に関する補助金の種類が数多くあることから、職員の補助金に対する理解を深める意味でも、農業従事者や農業に係る企業に向けた行政主導の勉強会を定期的開催することはできないか。</p>				市長 副市長 教育長 関係部長
2	共立蒲原総合病院について～地域医療を守るために2023 その2～	<p>静岡市議会令和5年6月定例会における総括質問において、共立蒲原総合病院について質問があった。 その内容は、構成市である静岡市、富士市及び富士宮市が毎年負担金・補助金を出しているが、その負担率が現在の共立蒲原総合病院の利用者の状況とかけ離れてはいないかといった主旨の質問であり、市長同士で交渉していただきたいといった内容であった。このことについて以下伺う。</p>				市長 副市長 教育長 関係部長

発言 順序	19	議席 番号	9	氏名	稲葉晃司 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
		(1) 構成市の市長同士でこの件について話し合ったことはあるのか。 (2) 利用者数の実態を考えると負担率の見直しも仕方のないことかもしれないが、市の考えはいかがか。 (3) 共立蒲原総合病院の老朽化が進んでいることから、病院の建て替えとなったときに想定される市の負担はどれほどのものなのか。				